

「恵みはわたしに届くのだろうか」
(ルカによる福音書8章40節～56節)

8:40 イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。人々は皆、イエスを待っていたからである。

8:41 そこへ、ヤイロという人が来た。この人は会堂長であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来てくださるようにと願った。

8:42 十二歳ぐらいの一人娘がいたが、死にかけていたのである。イエスがそこに行かれる途中、群衆が周りに押し寄せて来た。

8:43 ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。

8:44 この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。

8:45 イエスは、「わたしに触れたのはだれか」と言われた。人々は皆、自分ではないと答えたので、ペトロが、「先生、群衆があなたを取り巻いて、押し合っているのです」と言った。

8:46 しかし、イエスは、「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われた。

8:47 女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。

8:48 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」

8:49 イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」

8:50 イエスは、これを聞いて会堂長に言われた。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」

8:51 イエスはその家に着くと、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、それに娘の父母のほかには、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。

8:52 人々は皆、娘のために泣き悲しんでいた。そこで、イエスは言われた。「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ。」

8:53 人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。

8:54 イエスは娘の手を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけられた。

8:55 すると娘は、その霊が戻って、すぐに起き上がった。イエスは、娘に食べ物を与えるように指図をされた。

8:56 娘の両親は非常に驚いた。イエスは、この出来事をだれにも話さないようにとお命じになった。

ふたつの物語が入れ替わりながら書き進められています。

まずはヤイロという会堂長の家の12歳の娘さんが危篤なのでイエス様に来てほしいと

お願いし、イエス様がその家に向かっていくという場面から始まります。

そこにはなんとなく希望を感じます。

ヤイロはきっと、イエス様に来てくれるからきっと大丈夫、これで娘のいのちは

守られると安心したと思います。しかし死にかけている娘のことを考えると

もっともっと早く歩いて欲しいという思いを持っていただろうと思います。

それが場面1です。

ところが途中ひとつの出来事が起こり時間を取られてしまうのです。

12年間出血が止まらず、どこの医者に行っても直してもらえないばかりか、高い治療費を請求され

て全財産を使ってしまって絶望している女性が現れ、その人がわらにもすがる思いでイエス様の服の房に触るのです。服の房とここにあるのは、いわゆる被って身につける服の上に四角い毛布代わりになるような布の4隅についている房飾りのことでしょう。

そしてこの女性がふれると身体に変化が起こり、出血が止まったのです。

ところが問題はこのあとです。

イエス様は誰が触ったのか特定しようと弟子に尋ねるのです。

ペトロは、それを受けて「こんなに人が大勢いるのに無理です。」と

というような返答をするのですが、イエス様は「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われ、こだわるのです。

そして、それに応えて、女性が震えながら、イエス様の房に触れ、癒やされたことを告白します。というよりも「触れた理由」と「たちまちいやされた次第とを皆の前で話した」とありますから、結構時間をかけて話しているのです。

ヤイロの心境はどうだったでしょう。

イエス様はその女性に対して「8:48 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」と語ります。

どのくらいの時間が経っていたのでしょうか。

それにしても、どうしてイエス様はこの時間をとったのでしょうか。

想うに、神様の御業を味わったとき、それを神様に感謝したり、はっきり自分で自覚して言葉にするという作業がとても重要なことだからだと思います。

それが無いといつの間にか、忘れてしまうことがあるのです。あるいは、自分の力で治したのだと勘違いしてしまうこともあると思います。

「良かった」

「素晴らしい」という評価をよそにヤイロにとっては絶望的な出来事が起こります。

8:49 イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。この上、先生を煩わすことはありません。」

娘さんの死亡の報告が届くのです。

あなたがヤイロの立場だったら何を感じるでしょう。

イエス様はすぐにこう伝えます。

8:50 イエスは、これを聞いて会堂長に言われた。「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」

「恐れるな」

「ただ信じなさい」

「そうすれば、救われる」

もうダメだと考えても不思議はない状況です。

でも、この場所でイエス様は「恐れるな」と会堂長に伝えます。

恐れはわたしたちを不安と絶望感に誘い込みます。

イエス様が一緒にいる・ここに希望があるのです。

「ただ信じなさい」救い主が最善をなして下さる。神の御心がかならず実現する。

「救われる」希望が必ず心に届く。

しかし、この状況の中でイエス様以外の人から言われてもなかなかそのとおりににはできないかもしれません。

でも、イエス様がそう伝えているわけですから、そこには根拠があり、そこには間違いなく神の御手があるのです。

そして家に向かいます。

大勢の人たちが泣き悲しんでいました

8:51 イエスはその家に着くと、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、それに娘の父母のほかには、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。

8:52 人々は皆、娘のために泣き悲しんでいた。そこで、イエスは言われた。「泣くな。死んだのではない。眠っているのだ。」

8:53 人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。

イエス様の言葉に希望をいただいた人はだれもいなかったということがわかります。

無理に決まってるでしょ。という反応であり、イエス様にたいしてあざ笑ったと書かれています。それがおそらく一般的なヒューマンイズムの限界だと思います。

「死んだら終わり」「死んでしまったら何もできない」という発想の中に

わたしたちは生きています。

でも、イエス様はあえてその状況の中で

8:54 イエスは娘の手を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけられた。

8:55 すると娘は、その霊が戻って、すぐに起き上がった。イエスは、娘に食べ物を与えるように指図をされた。

8:56 娘の両親は非常に驚いた。イエスは、この出来事をだれにも話さないようにとお命じになった。

「霊が戻った」という表現が使われていますが、この霊は風、息とも訳せる

言葉で神の息が戻ったという意味になります。

まさに、イエス様が来たのはわたしたちの心に「神の息を吹き込んでわたしたちの

霊を活かすためでもありました。肉体は生きていても霊的に死んでいるわたしたちに

神の霊を吹き込み、あたらしく生かし、神様との関係を再度回復させるためでもありました。

その象徴的な出来事としてヤイロの家の娘さんの蘇生が記録されています。

でも

イエス様はこのことを人に言わないように注意しています。

それは、この「肉体的な死人を生かす」という出来事がイエス様の最重要の仕事ではないからです。

イエス様は十字架に向かって進んでいました。

そこでは、自らが生命をかけて人の死を死に、人を生かすということが実現されるのですが

それまで、道が妨げられないためには、人に「このイエスは死者を復活させる人だ」という

噂を広めてほしくなかったのでしょうか。それは十字架への道の妨げになるからです。

12年間長血を患っていた人が癒やされました。

イエス様はその人を特定し、その人はそれまでのこと、そこでのことを証しました。

でも、その御蔭でヤイロの娘さんが死んだという報告を受けることになったヤイロ。

彼の意識はどうだったでしょう。

でも、イエス様はとてもはっきり

恐れるな

信じなさい

救われる

と明言されました。

わたしたちは、その出来事のなかにいるとしたらどんな気持でイエス様の言葉を受け取るでしょう。

その女性が癒やされたことを喜べるでしょうか。

イエス様は「わたしたちの心と身体に神の霊をもたらすことのできる救い主です。

だからこそ絶望しなくて大丈夫だと信じていますか？

救いはかならずある、明るい希望は必ずあると信じていますか？

それが簡単にできれば、悩みはないのでしょうか

実際には、なかなか頭では理解していても難しい
ですね。

それがわたしたちの実態であり、わたしたちの弱
さなのだと思います。

それはそれとして認めつつ、この私を憐れんでく
ださいと祈れたら良いですね。

実は「信仰も賜物」なのです。

信じられるという出来事は大きな祝福です。

くれぐれもすねたままでいないようにしたいです
ね。

祝福がありますように。

＊＊

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/UDjrpf-cfq5>